

國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

第126巻総目録〔執筆者索引（五十音順）〕

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學 公開日: 2025-12-15 キーワード: 作成者: 國學院雑誌編集委員会 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001874

〔執筆者索引（五十音順）〕

- 厚 香 苗 高度経済成長期の民俗学的行政調査への在野民俗学者の貢献と
反抗—能地調査における鮎本刀良意の場合（研究ノート）
126 - 8
- 阿 部 賢 治 明治期の布志名焼—形象と背景—
（特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—）126 - 11
- 阿 部 裕 樹 遠賀川舟運の歴史
（特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—）126 - 11
- 安 西 晋 二 岡本起泉『恨瀬戸恋神奈川』論
—明治初期草双紙における虚実の一例— 126 - 5
- 飯 倉 義 之 小島瓔禮著『猫の王 猫伝承とその源流』（紹介） 126 - 2
- 飯 泉 健 司 居駒永幸著『古事記の成立〔歌と散文〕の表現史』（書評）
126 - 5
- 猪 刈 由 紀 近世ケルンの巡礼兄弟会と死者の追悼：伝承・記憶・史実
126 - 12
- 石 井 研 士 365分の1（談話室） 126 - 1
- 石 川 則 夫 早川昌成著『歌集 楽想の風』（紹介） 126 - 12
- 稲 松 朋 子 照井堰建設に関する一史料—安倍正左衛門とその業績—
（特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—）126 - 11
- 稲 見 知 華 『万葉集』における「去らず」と「落ちず」の語義用法
126 - 9
- 上 田 知 夫 金杉武司・塩野直之・高村夏輝編『野矢哲学に挑む 批判と応
答』（書評） 126 - 6
- 遠 藤 孝 徳 延喜式内石楯尾神社社主軍多利日向介多基成について
（特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—）126 - 11
- 大 浦 瑞 代 災害情報の受容と変容
—天明浅間山噴火災害絵図の事例から—
（特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—）126 - 11
- 大 高 康 正 参詣曼荼羅にみる聖地「平泉」の永続性
—静岡市立芹沢銈介美術館所蔵「中尊寺参詣曼荼羅」を対象
に—（特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—）
126 - 11
- 大 道 晴 香 スーパー戦隊シリーズ初期作品に見る敵と〈宗教〉
—「バトルフィーバーJ」と「太陽戦隊サンバルカン」を中
心に— 126 - 8

小田部 雄 次	上山和雄・内山京子・中澤恵子編『久邇宮家関係書簡集—近代皇族と家令の世界—』（書評）	126-2
加 瀬 直 弥	中世賀茂別雷神社の神事における鯉の供進について	126-7
加 藤 久 子	文化遺産の破壊と復元（談話室）	126-7
金 井 清 一	古事記、「纏向の日代宮」と「高光る 日の御子」	126-1
金 子 修 一	唐代の大酺・賜酺について	126-8
上石田 麗 子	初期Jホラーにおける『たたり』と『回転』の影響および霊媒の概念	126-3
上石田 麗 子	ヴァージニア・ウルフとD.H.ロレンスにおける断片化の意味の相違	126-9
神 長 英 輔	海の敵としての日本 —1930年代ソ連における日ソ漁業関係の語り—	126-6
川 島 秀 一	小川直之編『伝承文化研究の現代的課題』（書評）	126-12
川 瀬 慈	世界を異化することばの力 アフリカの吟遊詩人、アズマリ （講演録）	126-4
川 名 禎	明治維新期における城郭の建設と城下町の終焉 —上総国松尾城の復原を通じて— （特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—）	126-11
北 澤 尚	「にちがいない」の使用域の特異性について	126-3
木 村 規 高	彝文字の義借字に関する一考察	126-10
栗 木 崇	宮城県名取川流域に残された伊豆権現の伝来について （特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—）	126-11
小 池 寿 子	季節の巡りを告げる花（談話室）	126-5
小 菅 あすか	一条御息所の手紙表現と落葉の宮の「名」 —『源氏物語』「夕霧」巻における「おしひねり」を端緒として—	126-6
小 堀 貴 史	橋本政宣編『後陽成天皇—秀吉と対峙しつつ宮廷文化・文芸を復興させた聖王—』（書評）	126-7
近 藤 貞 祐	現代における虫送り行事の継承 —小豆島・中山虫送りの復活を事例として—（研究ノート）	126-7
坂 本 亮 太	熊野の中世村落 （特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—）	126-11
左 近 幸 村	高橋亮一著『北方海域をめぐる国際政治史—明治期日本の海獣猟業』（書評）	126-3

進藤久乃	クリスチャン・ドートルモン <small>の</small> 詩学における「抽象」 —読むことと見ることの結び目	126-4
神野雄二	保多孝三先生の事（談話室）	126-10
杉山一弥	南北朝期鎌倉寺院の境内安堵と絵図 （特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—）	126-11
鈴木顕房	古代の狭井神社について—大神氏との関係性を中心に—	126-3
関良子	近世初期海外貿易品が記載された旧世界図の作成過程について —山國神社所蔵「異国渡海船路積図」を中心に— （特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—）	126-11
高芝麻子	赤井益久・岡田充博・澤崎久和訳注 『唐代小説集『河東記』詳注 上・下』（書評）	126-1
高橋大助	笠間直穂子著『山影の町から』（紹介）	126-9
高橋忠彦	篇目次第の編纂資料	126-9
高橋久子	弘治二年本倭玉篇の特徴	126-7
竹内綱史	ショーペンハウアー著、藤野寛訳『自殺について 他四篇』 （紹介）	126-10
竹内正彦	紫式部は「まひろ」か？（談話室）	126-4
館健一	都としての「洛陽」—芥川龍之介「杜子春」試論—	126-12
田中健司	幕末期・磐井郡山谷本寺における馬産制度の展開 —仙台藩の奨励策と馬政的役割を手がかりに— （特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—）	126-11
田中玄太	近代における「ふのり」の生産と流通（学生懸賞論文）	126-12
田中文雄	一行と九曜曼荼羅（談話室）	126-6
千葉聡	校歌をつくる（談話室）	126-12
塚原明弘	源氏長者としての光源氏 —『源氏物語』の歴史的背景—	126-10
土谷彰男	赤井益久著『中唐詩論集—研究・講演・書評』（書評）	126-4
土佐秀里	大橋を渡る美女—河内大橋と天津橋—	126-2
中村幸弘	西田幾多郎『善の研究』に見る活用語を承ける準体助詞「の」 について	126-4
中山さら	出雲国造神賀詞奏上儀礼からみた大己貴神	126-5
双木俊介	東京西郊の郊外化にともなうターミナル駅の形成 —鉄道網の結節に注目して— （特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—）	126-11

新 倉 真矢子	ドイツ語圏のジェンダーニュートラルの表記（談話室）	126 - 2
橋 村 修	「食用魚」の嗜好をめぐる戦前期における地域性 —魚類学者・田中茂穂の漁場・産地・消費地への関心 (特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—)	126 - 11
羽 鳥 佑 亮	昔話「貧乏神」攷—話型と構造の整理—	126 - 2
羽 鳥 佑 亮	貧乏神の誕生	126 - 8
針 谷 壮 一	一冊の聖書（談話室）	126 - 8
付 英	因果関係を表す接続表現の文体的特徴 —現代日本語のコーパス資料を用いて—	126 - 4
福 本 悠 人	半井真澄に依る祭式研究 —祝詞奏上の作法を中心として—（学生懸賞論文）	126 - 9
古 庄 る い	山脇麻生著、中村正明監修『すぐ読める！ 葛屋重三郎と江戸の黄表紙』（紹介）	126 - 10
三 河 雅 弘	八世紀における班田図の形態と表現内容 (特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—)	126 - 11
三 宅 清	助動詞ムの連体形の語性—現実・非現実の観点から	126 - 1
矢 嶋 正 幸	オオカミの護符の作成者について ～埼玉県岩根神社と釜山神社を事例にして～（研究ノート）	126 - 7
安 原 伸一朗	進藤久乃編著『戦後フランスの前衛たち—言葉とイメージの実験史』（書評）	126 - 1
山 口 祐 樹	中世移行期神宮祭祀の基礎的研究『皇太神宮年中行事』にみえる祭儀次第の検討 —正宮への参入・退出経路を中心に—	126 - 2
山 田 潔	中近世書簡文の謙讓・丁重表現 —「奉る」「申す」「仕る」「致す」の用法—	126 - 5
山 本 哲 也	博物館人・森林太郎（鷗外）の再評価	126 - 1
山 本 哲 也	複製美術館、の夢（談話室）	126 - 9
山 本 久	「御+形容詞」の発達について	126 - 6
吉 田 敏 弘	明治初年、地理学者ライン博士の日本調査日記（談話室）	126 - 3
吉 田 敏 弘	歴史地理学と景観プラン論 —条坊・条里の設計理念を事例として (特集 歴史地理学の新展開—地域・景観・絵図—)	126 - 11
吉 田 永 弘	小田勝著『源氏物語全解説』（第一巻・第二巻）（紹介）	126 - 8

リュウ　サイモン　黄泉国訪問譚における和漢の交渉 — 秦簡牘「丹」「秦原有死者」と『搜神記』の再生説話をめぐって—	126-12
渡　辺　俊　和　文軌による二喩例をめぐる議論	126-10